

連合教職実践研究科高度教職開発専攻

学位プログラム

令和5年4月



大阪教育大学

OSAKA KYOIKU UNIVERSITY

目 次

スクールリーダーシップコース	1
援助ニーズ教育実践コース	2
教育実践力コース	3
特別支援教育コース	5

スクールリーダーシップコース【取得できる学位:教職修士(専門職)】

◆学位プログラムの概要と人材養成のねらい

一定の経験を持つ現職教員を対象とし、教員集団をリードし、保護者、地域住民等と協働して、学校及び地域の新しい教育課題を解決するために求められる優れたリーダーシップを発揮できる教員を養成します。

そのため、一定の経験を持つ現職教員に、これまでの教職経験で培った実践的知見と先進的な教育研究に基づく理論的な知見を統合させ、学校経営の中心的役割を担うために必要な実践力を体得させます。

◆学位プログラムの到達目標(ディプロマ・ポリシー)

所定の単位を修得し、教職に関する実践的知識・技能を拡充するための省察や教育実践研究の方法論、同僚や他の教育関係者との協力や協働、学校における組織的活動の視点と方法を獲得するとともに、学校教育の制度や仕組み、教育課程、授業や教材、子どもの心理や発達と生活及びその多様性等に関する高度な専門的知識と実践的指導力を統合的に有すると認められた者に学位を授与する。

(1)学校教育の発展的理解

- ・社会における学校の役割と望ましい専門職としての教員の在り方を理解し、それを踏まえたキャリアプランを策定できる。
- ・学校安全と危機管理、人権教育、健康教育、子どもの貧困と児童虐待、社会的包摂などの今日的な教育課題について理解し、それに応じた実践を計画・実施できる。
- ・学校の実情や特徴を踏まえた経営計画を策定できる。
- ・学校づくりに求められるリーダーの役割と行動を理解し、それを所属組織の状況に応じて発揮できる。
- ・エビデンスに基づく学校改革のためのアクションリサーチの理法と技法を会得し、それを発揮できる。
- ・学校組織の成長をデザインし、それに必要とされる戦略を構想・実行できる。

(2)指導内容の高度な理解と実践的指導力

- ・教育課程編成の今日的課題やカリキュラム・マネジメントの理論を理解し、それを踏まえた実践を推進できる。
- ・各学校の実情を踏まえて、当該校の教育課程全体を編成できる。
- ・教科等の授業の多様性や今日的な在り方を理解し、それらに応じた授業を計画したり、そのための教材を準備したり、その指導と評価を工夫したりできる。
- ・グローバル教育の理念や枠組み、動向を把握し、そのプログラムを開発できる。
- ・教育の情報化に応じた指導とカリキュラムについて、その理念や枠組み、動向を把握し、それを推進するためのプランを策定し、実行できる。

(3)多様な子どもに対応できる指導力

- ・各学校種の生徒指導上の問題のメカニズムや多様性を理解し、理論的・実践的に解釈できる。
- ・各学校種の生徒指導上の諸課題に関して、発達段階や状況に応じた指導ができる。
- ・各児童生徒の生徒指導上の諸課題に対し、適切な指導方法を選択して他の教員へ指導・助言ができる。

(4)教職力量をみがく力

- ・教育実践を研究的に展開するための視点と方法を会得している。
- ・教育実践者としての自己を省察するとともに、他の教員との学びあいの中で教員の資質能力の向上をリードすることができる。
- ・組織としての学校やその基本単位としての学校の在り方、コンプライアンスの重要性を再認識し、地域・保護者・他機関との関係の構築を進めることができる。
- ・学校における人材育成、教員間の連携や協力の理念や枠組み、動向を把握し、それを進展させるための実践を創発できる。
- ・教育委員会指導主事として、学校に対して繰り広げるコンサルテーションに関して、その理念や枠組み、動向を把握し、それを進展させるための実践を創発できる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針(カリキュラム・ポリシー)

学校教育の全体像を俯瞰できるような幅広い実践力や課題解決力や応用力を培い、教職に関する高度な専門的知識と実践的指導力を統合的に養成するため、カリキュラムは以下の科目で編成・実施する。

①高度な専門性を有する教員を養成するための基礎的素養を修得する研究科共通科目

②変化する教育環境に対応するために、様々な教育のあり方を俯瞰的な視点で把握するための体験的基盤を確立する学校実習科目

③自らのキャリアや所属学校等の組織課題を踏まえ、専門的かつ多元的に学びを進めることを目的としたコース科目

④自ら学校実践の現場における課題を設定し、研究科共通科目、コース科目、学校実習科目での学びと関連させながら学びを進め、最終的に実践課題研究報告書にまとめることを目的とする課題研究科目

①及び③の実施については、主体的・対話的で深い学びを提供する。具体的には、講義に加えて、グループワーク、発表、討論等の活動を取り入れる。さらに、必要に応じて、教職経験を活かした活動を導入する。また、成績評価については、試験・レポートのほか、グループワーク、発表、討論等の活動も重視する。

②及び④に関しては、調査・計画・実施・評価及び改善のサイクルを繰り返すこと、それらの過程における同僚等とのコミュニケーションや協働を重視する。

◆プログラムの履修要件(アドミッション・ポリシー)

<p>○求める学生像 学校や地域が抱える教育課題の解決において指導的・中核的な役割を果たすために求められる高度で優れた実践力の獲得をめざす現職教員及び教育委員会関係者</p> <p>○入学者選抜の基本方針 (大学院入学者選抜) ・「小論文」では、教職に必要とされる読解力、思考力、文章表現力を特に評価します。 ・「口述試験」において 教員として学び続ける意欲を持ち、自らの教員としてのキャリアと学修計画を関連づける思考力、判断力、表現力を特に評価します。 ・「学修計画書」において 所属する組織の課題を把握し、その解決のために教員として自らが高めるべき資質・能力を明確にしている学修計画を特に評価します。</p> <p>○入学前に学習しておくことが期待される内容 ・教育全体や所属する組織の課題を理解し、課題解決をする力 ・組織の一員として協働して取り組む力 ・子ども一人ひとりを理解し、授業づくり、集団づくりを指導する力</p>

援助ニーズ教育実践コース【取得できる学位:教職修士(専門職)】

◆学位プログラムの概要と人材養成のねらい

<p>現職教員等や学部卒学生等一種免許状取得者を対象とし、多様な援助ニーズに対応するための高度な教育的手法を探究させ、「チーム学校」の考えに基づく学校内・外の関係者と協働して展開できる教員を養成します。そのため、子どもを取り巻く多様な援助ニーズに対して、協働的に援助する実践力を備えるとともに、現代的な教育課題である子どものいじめや不登校、問題行動に加え、発達障がい、健康課題の視点から、社会環境と個人の関係性を考慮した援助ニーズを理解させます。</p>

◆学位プログラムの到達目標(ディプロマ・ポリシー)

注:[]内は対象

<p>所定の単位を修得し、教職に関する実践的知識・技能を拡充するための省察や教育実践研究の方法論、同僚や他の教育関係者との協力や協働、学校における組織的活動の視点と方法を獲得するとともに、学校教育の制度や仕組み、教育課程、授業や教材、子どもの心理や発達と生活及びその多様性等に関する高度な専門的知識と実践的指導力を統合的に有すると認められた者に学位を授与する。</p>
<p>(1)学校教育の発展的理解 ・社会における学校の役割と望ましい専門職としての教員の在り方を理解し、それを踏まえたキャリアプランを策定できる。 ・学校安全と危機管理、人権教育、健康教育、子どもの貧困と児童虐待、社会的包摂などの今日的な教育課題について理解し、それに応じた実践を計画・実施できる。 ・学校の実情や特徴を踏まえた経営計画を策定できる。</p>
<p>(2)指導内容の高度な理解と実践的指導力 ・教育課程編成の今日的課題やカリキュラム・マネジメントの理論を理解し、それを踏まえた実践を推進できる。 ・各学校の実情を踏まえて、当該校の教育課程全体を編成できる。 ・教科等の授業の多様性や今日的な在り方を理解し、それらに応じた授業を計画したり、そのための教材を準備したり、その指導と評価を工夫したりできる。 ・子どもの発達や子ども間の関係を把握し、子どもの一人ひとりの援助ニーズを踏まえ、指導計画を作成することができる。〔ストレートマスター学生・現職教員共通〕 ・子どもの様々な背景を考慮して子どもの援助ニーズを汲み取り、教育課程・内容や個別の支援に反映できる。〔ストレートマスター学生・現職教員共通〕</p>
<p>(3)多様な子どもに対応できる指導力 ・各学校種の生徒指導上の問題のメカニズムや多様性を理解し、理論的・実践的に解釈できる。 ・各学校種の生徒指導上の諸課題に関して、発達段階や状況に応じた指導ができる。 ・各児童生徒の生徒指導上の諸課題に対し、適切な指導方法を選択して他の教員へ指導・助言ができる。 ・子どもの教育・保育上の様々な課題をアセスメントし、学校園内での支援を構想できる〔ストレートマスター学生〕 ・子どもの教育・保育上の様々な課題をアセスメントし、校内外の専門家や保護者と連携しながらの援助を構想できる。〔現職教員〕 ・子ども一人ひとりのニーズに応えるだけでなく、その学校園の子どもに共通して認められるニーズについては、深刻な問題にならないように予防に取り組むことができる。〔現職教員〕 ・特別なニーズ、いじめ、不登校の子どもについては、校内外の専門家との連携を構想できる。〔ストレートマスター学生〕 ・特別なニーズ、いじめ、不登校については、校内外の専門家や保護者と協働しながら援助できる。〔現職教員〕 ・個々の子どもの援助ニーズに応えつつ、子ども全体への予防教育的な活動を構想できる。〔ストレートマスター学生〕 ・個々の子どもの援助ニーズに応えつつ、子ども全体への予防教育的な活動と関連させ、子どもが学びあい支えあう関係をつくることことができる。〔現職教員〕</p>

(4)教職力量をみがく力

・教育実践を研究的に展開するための視点と方法を会得している。
・教育実践者としての自己を省察するとともに、他の教員との学びあいの中で教員の資質能力の向上をリードすることができる。
・組織としての学校やその基本単位としての学校の在り方を理解し、地域・保護者・他機関との関係の構築を進めることができる。

・子どもの援助ニーズを汲み取るための、多様な視点と様々な方法を理解し、さらにそれらの共有の仕方や職業上の倫理を理解している。〔ストレートマスター学生・現職教員共通〕

・学校園などの組織の全体の動きや、学校種間の連携・協働の必要性を理解し、それぞれの機能とニーズを理解する〔ストレートマスター学生・現職教員共通〕

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針(カリキュラム・ポリシー)

学校教育の全体像を俯瞰できるような幅広い実践力や課題解決力や応用力を培い、教職に関する高度な専門的知識と実践的指導力を統合的に養成するため、カリキュラムは以下の科目で編成・実施する。

①高度な専門性を有する教員を養成するための基礎的素養を修得する研究科共通科目

②変化する教育環境に対応するために、様々な教育のあり方を俯瞰的な視点で把握するための体験的基盤を確立する学校実習科目

③学校現場における協働的援助の実践力を育成することを目的としたコース科目

④自ら学校実践の現場における課題を設定し、研究科共通科目、コース科目、学校実習科目での学びと関連させながら学びを進め、最終的に実践課題研究報告書にまとめることを目的とする課題研究科目

①及び③の実施については、主体的・対話的で深い学びを提供する。具体的には、講義に加えて、グループワーク、発表、討論等の活動を取り入れる。さらに、必要に応じて、教職経験を活かした活動を導入する。また、成績評価については、試験・レポートのほか、グループワーク、発表、討論等の活動も重視する。

②及び④に関しては、調査・計画・実施・評価及び改善のサイクルを繰り返すこと、それらの過程における同僚等とのコミュニケーションや協働を重視する。

◆プログラムの履修要件(アドミッション・ポリシー)

○求める学生像

・学校や地域が抱える教育課題の解決において指導的・中核的な役割を果たすために求められる高度で優れた実践力の獲得をめざす現職教員及び教育委員会関係者

・新しい学校づくりの担い手として自ら学び続けることで実践的指導力の獲得をめざす人

○入学者選抜の基本方針

(大学院入学者選抜)

・「小論文」では、教職に必要とされる読解力、思考力、文章表現力を特に評価します。

・「口述試験」において

学部卒学生等では、教員として学び続ける意欲、教職に関わる実践的な知識・技法、大学院での学修計画を特に評価します。現職教員等では、教員として学び続ける意欲を持ち、自らの教員としてのキャリアと学修計画を関連づける思考力、判断力、表現力を特に評価します。

・「学修計画書」において

学部卒学生等では、学部での学修を踏まえ、教員として自らが身につけるべき資質・能力を明確にし、それを学校等における教育課題と関連づけた具体的な学修計画を特に評価します。現職教員等では、所属する組織の課題を把握し、その解決のために教員として自らが高めるべき資質・能力を明確にしている学修計画を特に評価します。

○入学前に学習しておくことが期待される内容

(学部卒学生等) ・大学卒業レベルと同等の基礎学力 ・教職への基本的な知識・技能

(現職教員等) ・教育全体や所属する組織の課題を理解し、課題解決をする力

・組織の一員として協働して取り組む力 ・子ども一人ひとりを理解し、授業づくり、集団づくりを指導する力

教育実践力コース【取得できる学位:教職修士(専門職)】

◆学位プログラムの概要と人材養成のねらい

現職教員等や学部卒学生等一種免許状取得者を対象とし、児童・生徒に即した、実践的で高度な学習指導、学習評価の能力を持ち、教員としてのカリキュラム・マネジメントや、教科横断的な視野を持った教科領域の指導、今日的な教育課題に対応した授業開発に、先端的かつ継続的に取り組むことのできる教員を養成します。そのため、カリキュラム・マネジメントの理解を起点として、教科を統合する力を身に付けるとともに、教科領域の確実な学習指導と評価に加え、授業単元・カリキュラム設計とその評価・改善ができる能力を獲得させます。また、ICTの先進的活用、アクティブ・ラーニングなど効果的な授業形態の導入、パフォーマンス課題の設定とルーブリック評価の適切な活用など、教科領域を含む教育実践力を総合的に育成します。

◆学位プログラムの到達目標(ディプロマ・ポリシー)

所定の単位を修得し、教職に関する実践的知識・技能を拡充するための省察や教育実践研究の方法論、同僚や他の教育関係者との協力や協働、学校における組織的活動の視点と方法を獲得するとともに、学校教育の制度や仕組み、教育課程、授業や教材、子どもの心理や発達と生活及びその多様性等に関する高度な専門的知識と実践的指導力を統合的に有すると

認められた者に学位を授与する。

(1)学校教育の発展的理解

- ・社会における学校の役割と望ましい専門職としての教員の在り方を理解し、それを踏まえたキャリアプランを策定できる。
- ・学校安全と危機管理、人権教育、健康教育、子どもの貧困と児童虐待、社会的包摂などの今日的な教育課題について理解し、それに応じた実践を計画・実施できる。
- ・学校の実情や特徴を踏まえた経営計画を策定できる。

(2)指導内容の高度な理解と実践的指導力

- ・教育課程編成の今日的課題やカリキュラム・マネジメントの理論を理解し、それを踏まえた実践を推進できる。
- ・各学校の実情を踏まえて、当該校の教育課程全体を編成できる。
- ・教科等の授業の多様性や今日的な在り方を理解し、それらに応じた授業を計画したり、そのための教材を準備したり、その指導と評価を工夫したりできる。
- ・教科横断的な視点に基づき、また校園種をまたいで、教科領域のカリキュラムを構想・実践できる。
- ・教科領域の教材・題材を開発し、実践的に展開できる。
- ・アクティブ・ラーニングを実現するために、各教科や教科領域の指導に即して ICT を効果的に活用できる。

(3)多様な子どもに対応できる指導力

- ・各学校種の生徒指導上の問題のメカニズムや多様性を理解し、理論的・実践的に解釈できる。
- ・各学校種の生徒指導上の諸課題に関して、発達段階や状況に応じた指導ができる。
- ・各児童生徒の生徒指導上の諸課題に対し、適切な指導方法を選択して他の教員へ指導・助言ができる。

(4)教職力量をみがく力

- ・教育実践を研究的に展開するための視点と方法を会得している。
- ・教育実践者としての自己を省察するとともに、他の教員との学びあいの中で教員の資質能力の向上をリードすることができる。
- ・組織としての学校やその基本単位としての学校の在り方を理解し、地域・保護者・他機関との関係の構築を進めることができる。
- ・教材や題材を開発することの重要性を認識し、それを実行できる。
- ・授業を研究的に分析・省察し、授業改善につなげることができる。
- ・他の教員と協働で、教科横断的な教育実践を立案・実践・省察できる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針(カリキュラム・ポリシー)

学校教育の全体像を俯瞰できるような幅広い実践力や課題解決力や応用力を培い、教職に関する高度な専門的知識と実践的指導力を統合的に養成するため、カリキュラムは以下の科目で編成・実施する。

- ①高度な専門性を有する教員を養成するための基礎的素養を修得する研究科共通科目
 - ②変化する教育環境に対応するために、様々な教育のあり方を俯瞰的な視点で把握するための体験的基盤を確立する学校実習科目
 - ③教育現場の諸課題に広い視野をもって即応できる能力を育成するコース必修科目、授業を研究的に分析・省察し、授業改善につなげる能力を育成する科目(授業研究演習科目、等)と、教科領域の先端的な教材・題材を開発し、実践的に展開できる能力を育成する科目(教材・題材開発研究科目、高度教科内容研究科目)からなるコース選択科目
 - ④自ら学校実践の現場における課題を設定し、研究科共通科目、コース科目、学校実習科目での学びと関連させながら学びを進め、最終的に実践課題研究報告書にまとめることを目的とする課題研究科目
- ①及び③の実施については、主体的・対話的で深い学びを提供する。具体的には、講義に加えて、グループワーク、発表、討論等の活動を取り入れる。さらに、必要に応じて、教職経験を活かした活動を導入する。また、成績評価については、試験・レポートのほか、グループワーク、発表、討論等の活動も重視する。
- ②及び④に関しては、調査・計画・実施・評価及び改善のサイクルを繰り返すこと、それらの過程における同僚等とのコミュニケーションや協働を重視する。

◆プログラムの履修要件(アドミッション・ポリシー)

○求める学生像

- ・学校や地域が抱える教育課題の解決において指導的・中核的な役割を果たすために求められる高度で優れた実践力の獲得をめざす現職教員及び教育委員会関係者
- ・新しい学校づくりの担い手として自ら学び続けることで実践的指導力の獲得をめざす人

○入学者選抜の基本方針

- 基本理念・目標等にふさわしい学生を受け入れるために、次の大学院入学者選抜を実施します。
- (大学院入学者選抜)
- ・「小論文」では、教職に必要な読解力、思考力、文章表現力を特に評価します。
 - ・「口述試験」において
学部卒学生等では、教員として学び続ける意欲、教職に関わる実践的な知識・技法、大学院での学修計画を特に評価しま

す。現職教員等では、教員として学び続ける意欲を持ち、自らの教員としてのキャリアと学修計画を関連づける思考力、判断力、表現力を特に評価します。

・「学修計画書」において

学部卒学生等では、学部での学修を踏まえ、教員として自らが身につけるべき資質・能力を明確にし、それを学校等における教育課題と関連づけた具体的な学修計画を特に評価します。現職教員等では、所属する組織の課題を把握し、その解決のために教員として自らが高めるべき資質・能力を明確にしている学修計画を特に評価します。

○入学前に学習しておくことが期待される内容

(学部卒学生等) ・大学卒業レベルと同等の基礎学力 ・教職への基本的な知識・技能

(現職教員等) ・教育全体や所属する組織の課題を理解し、課題解決をする力

・組織の一員として協働して取り組む力 ・子ども一人ひとりを理解し、授業づくり、集団づくりを指導する力

特別支援教育コース【取得できる学位:教職修士(専門職)】

◆学位プログラムの概要と人材養成のねらい

現職教員等や学部卒学生等特別支援学校一種免許状取得者を対象とし、特別支援教育の対象となる子ども一人ひとりのニーズに対応した適切な教育支援を行える高度な能力を身につけ、また特別支援コーディネーターとしての役割を担うことのできる教員を養成する。そのため、インクルーシブ教育構築の観点から、特別支援学校、幼稚園、小学校、中学校、高等学校ならびに各種施設における特別なニーズのある子どもたちの能力や個性に応じた専門的な教育支援を追求することによって、特別支援教育における指導的教育者、特別支援教育コーディネーター等となるのに必要な洞察力・実践力を育成する。

◆学位プログラムの到達目標(ディプロマ・ポリシー)

所定の単位を修得し、教職に関する実践的知識・技能を拡充するための省察や教育実践研究の方法論、同僚や他の教育関係者との協力や協働、学校における組織的活動の視点と方法を獲得するとともに、学校教育の制度や仕組み、教育課程、授業や教材、子どもの心理や発達と生活及びその多様性等に関する高度な専門的知識と実践的指導力を統合的に有する人材と認められた者に学位を授与する。

(1)学校教育の発展的理解

- ・社会における学校の役割と望ましい専門職としての教員の在り方を理解し、それを踏まえたキャリアプランを策定できる。
- ・学校安全と危機管理、人権教育、健康教育、子どもの貧困と児童虐待、社会的包摂などの今日的な教育課題について理解し、それに応じた実践を計画・実施できる。
- ・学校の実情や特徴を踏まえた経営計画を策定できる。
- ・特別なニーズのある子どものニーズをくみ取るための多様な視点と方法を会得し、それを実践できる。

(2)指導内容の高度な理解と実践的指導力

- ・教育課程編成の今日的課題やカリキュラム・マネジメントの理論を理解し、それを踏まえた実践を推進できる。
- ・各学校の実情を踏まえて、当該校の教育課程全体を編成できる。
- ・教科等の授業の多様性や今日的な在り方を理解し、それらに応じた授業を計画したり、そのための教材を準備したり、その指導と評価を工夫したりできる。
- ・特別なニーズをもつ子どもの様々な状況を考慮して、教育課程、内容、教材・教具に反映できる。

(3)多様な子どもに対応できる指導力

- ・各学校種の生徒指導上の問題のメカニズムや多様性を理解し、理論的・実践的に解釈できる。
- ・各学校種の生徒指導上の諸課題に関して、発達段階や状況に応じた指導ができる。
- ・各児童生徒の生徒指導上の諸課題に対し、適切な指導方法を選択して他の教員へ指導・助言ができる。
- ・特別なニーズのある子どもの、それぞれのニーズを捉え、個に応じた指導・支援ができる。
- ・個の教育ニーズに応じ、エビデンスに基づいた教育相談・支援を実践できる。

(4)教職力量をみがく力

- ・教育実践を研究的に展開するための視点と方法を会得している。
- ・教育実践者としての自己を省察するとともに、他の教員との学びあいの中で教員の資質能力の向上をリードすることができる。
- ・組織としての学校やその基本単位としての学校の在り方を理解し、地域・保護者・他機関との関係の構築を進めることができる。
- ・校内支援や関係機関との連携を進め、校内における特別支援教育の推進役として、学校の課題解決に取り組むことができる。